



×



長崎県

長崎県の女性を対象とした 妊娠・出産・不妊に関する意識調査

『ルナルナ』を運営する（株）エムティーアイと長崎県は、「妊活支援等に関する連携協定」を締結しています。

エムティーアイ

調査概要

● 調査の目的

長崎県在住の女性の妊娠～育児に対する意識や課題を把握し自治体の施策検討や、『ルナルナ』のサービス向上に活用する。

● 調査実施時期

令和2年8月19日(水)～令和2年8月31日(月)

● 調査対象

全国の10代～50代以上の女性：19,011名

そのうち長崎県在住の女性：198名

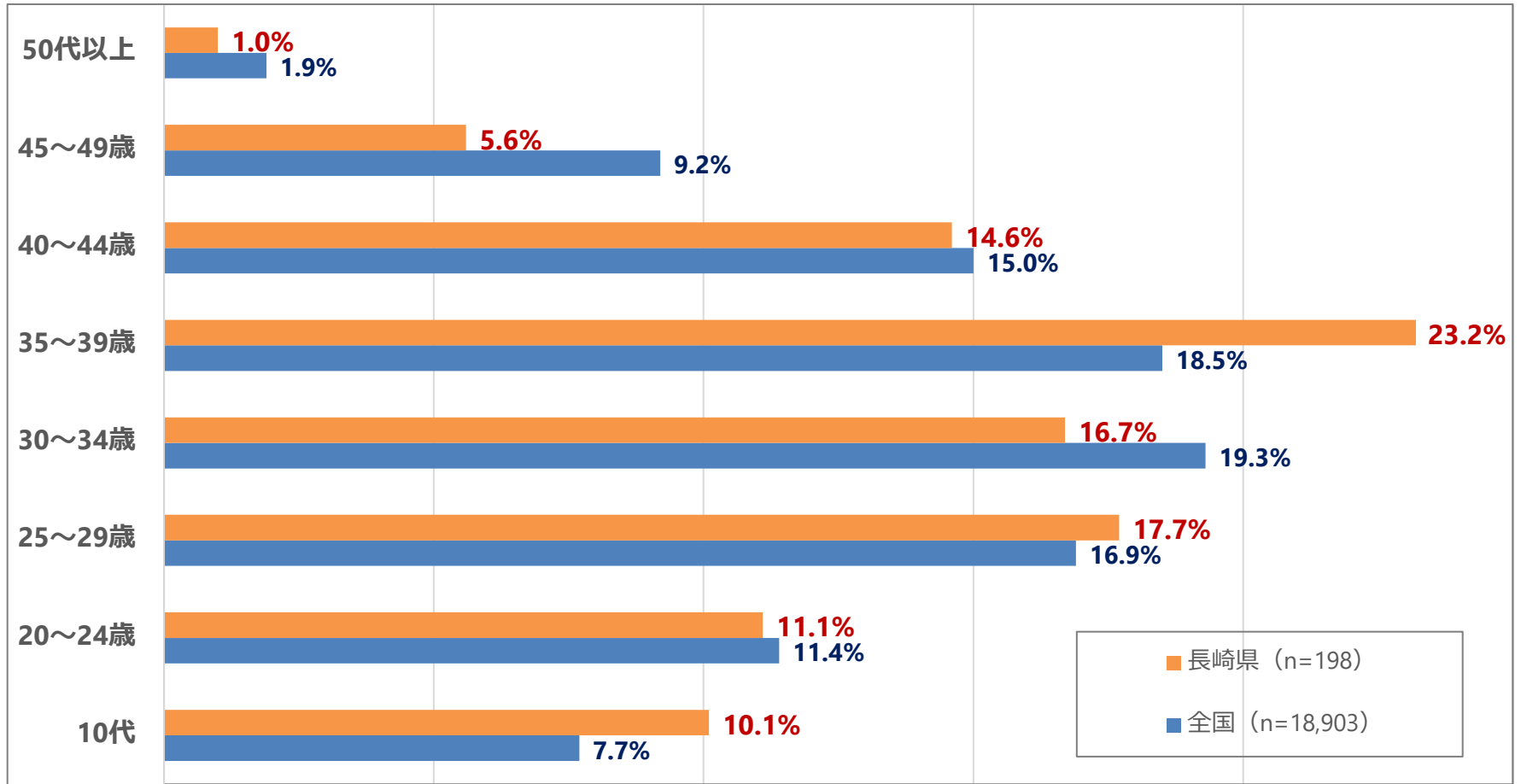
● 調査方法

株式会社エムティーアイが運営する女性の健康情報サービス「ルナルナ」及び「ルナルナ 体温ノート」内にてアンケート調査を実施

回答者の属性について

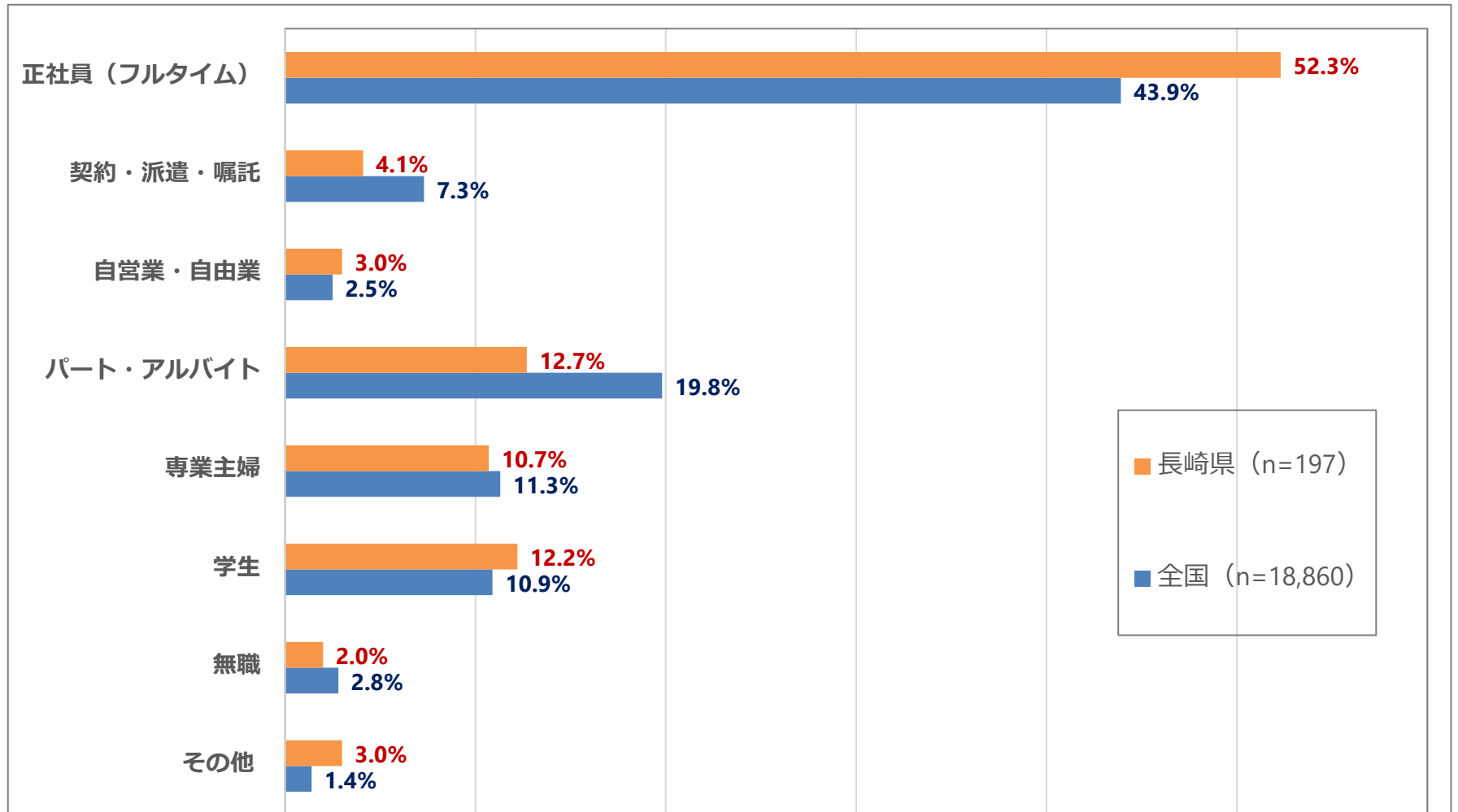
Q. あなたの年齢、就業状況、婚姻状況、お子様の有無を教えてください

【年齢】



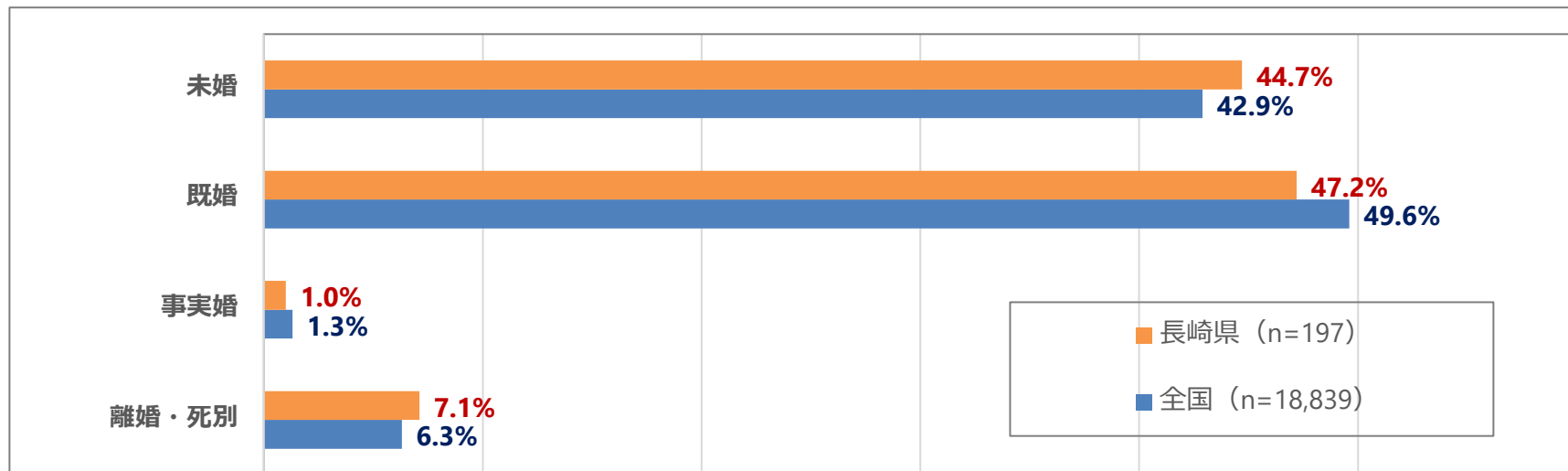
回答者の属性について

【就業状況】



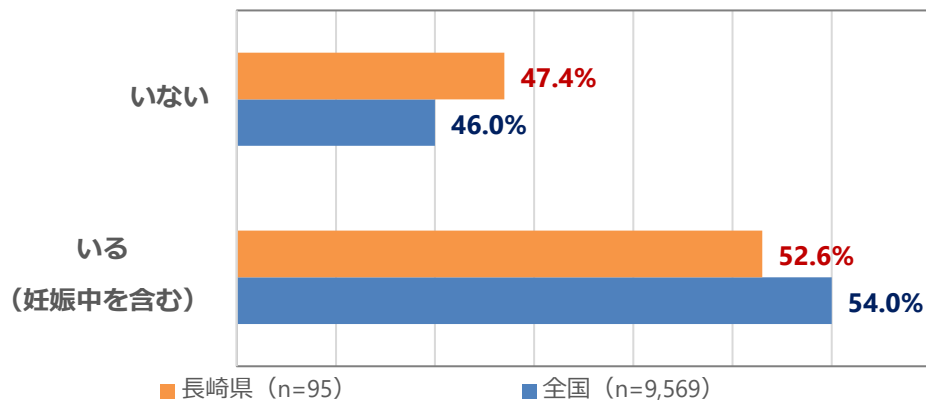
回答者の属性について

【婚姻状況】

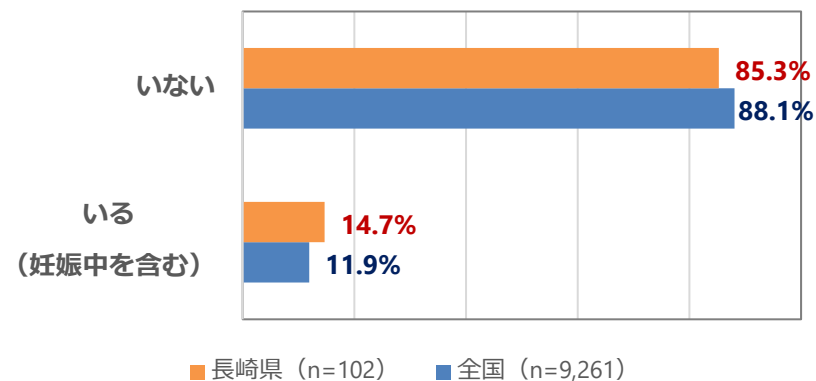


【子どもの有無】

既婚・事実婚の女性

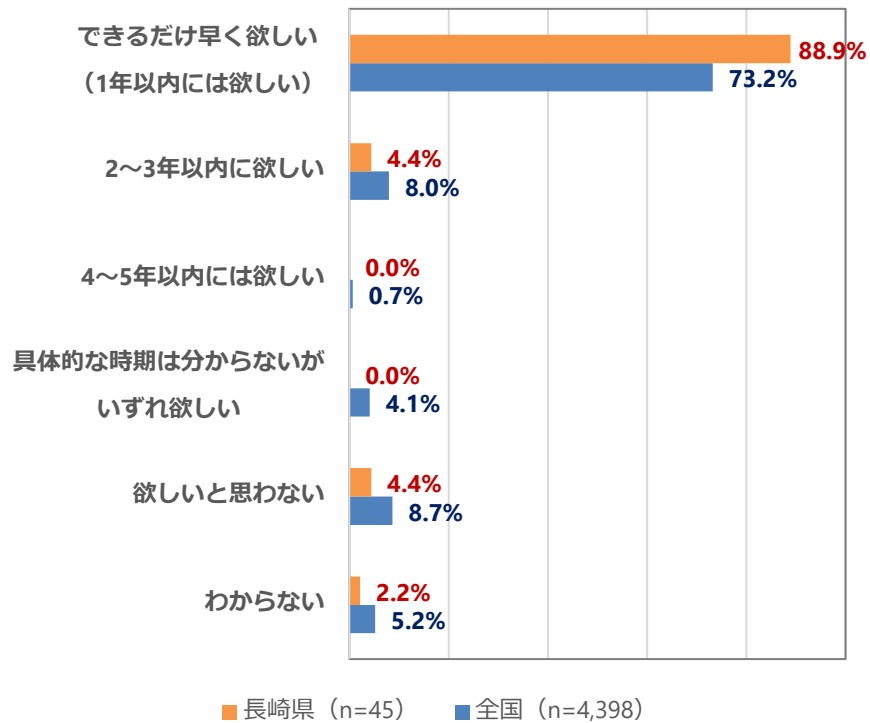


未婚・離死別の場合

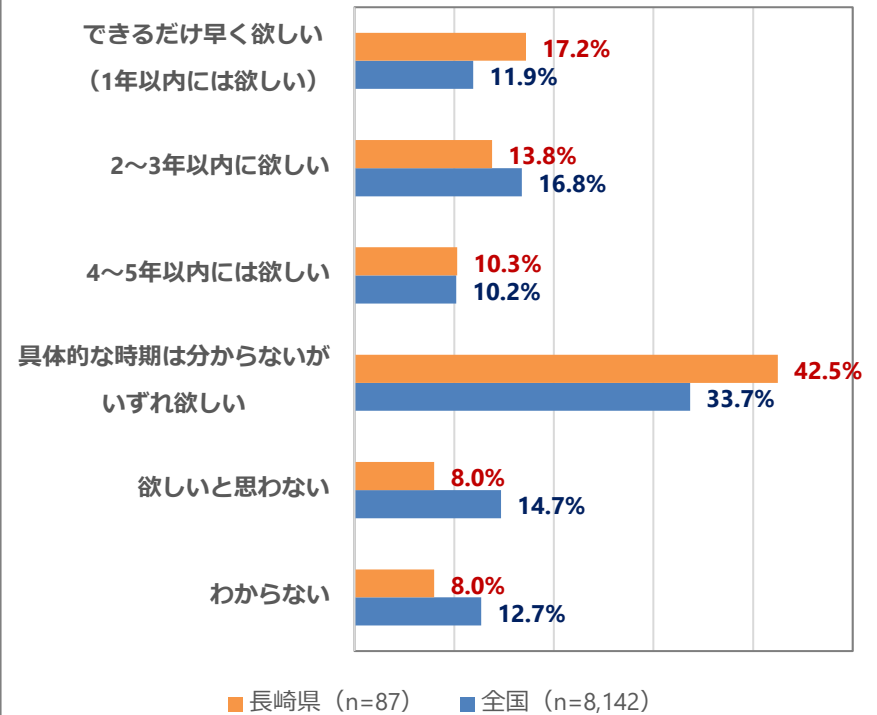


将来的な育児希望について

既婚・事実婚で子どもがいない



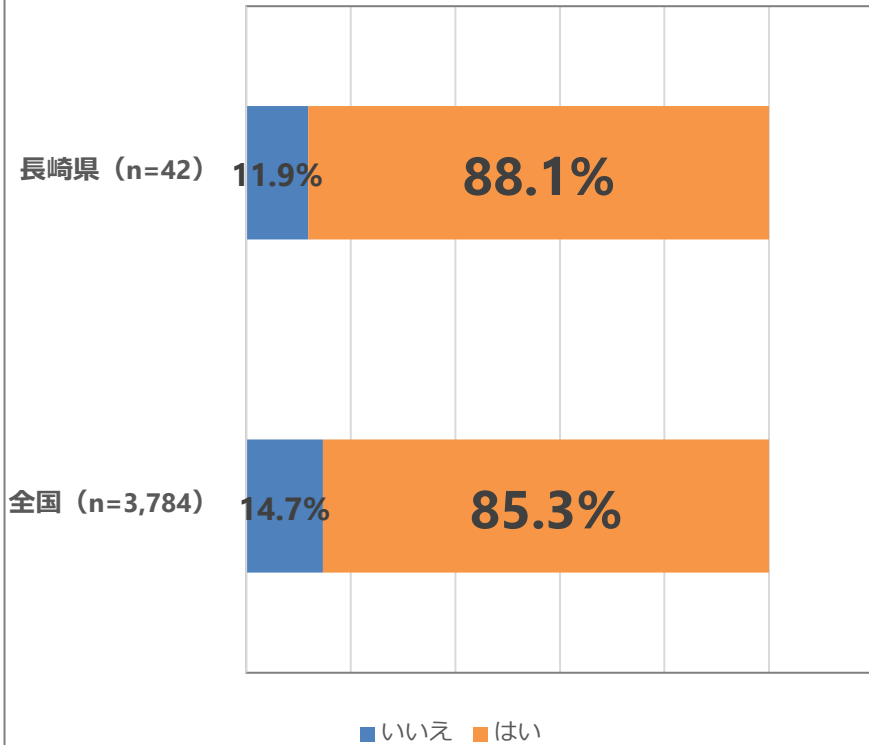
未婚・離死別で子どもがいない



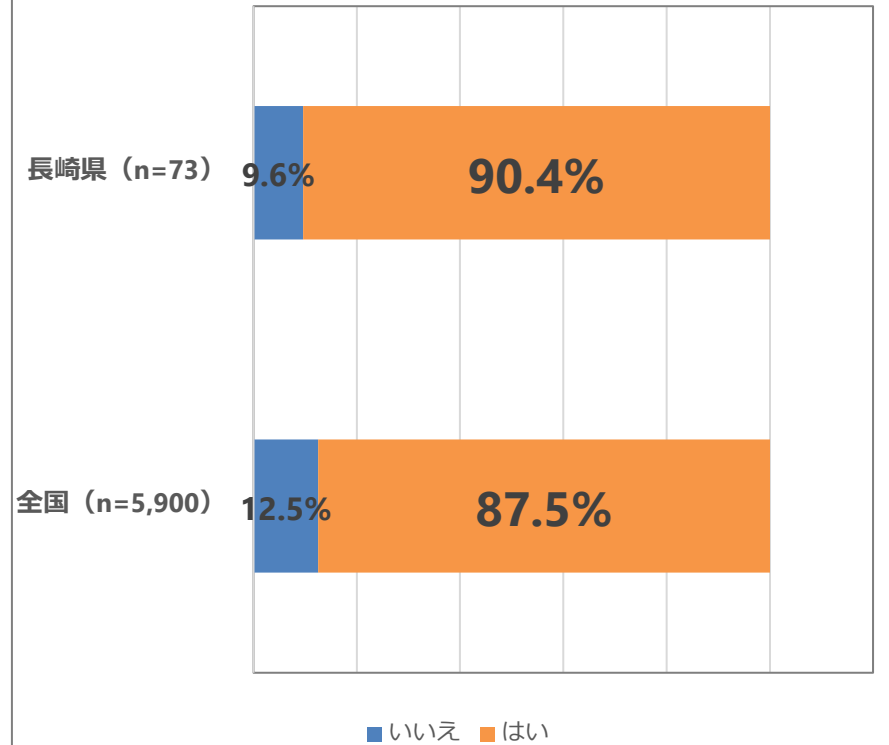
長崎県では、現在子どもがいない既婚・事実婚の女性の9割以上が、未婚・離死別でも8割以上の女性が将来的には子どもを望んでいるという結果に。どちらも全国平均よりも高い傾向。

Q.将来子どもを持つことを想定した際、何か不安なことはありますか。

既婚・事実婚の女性



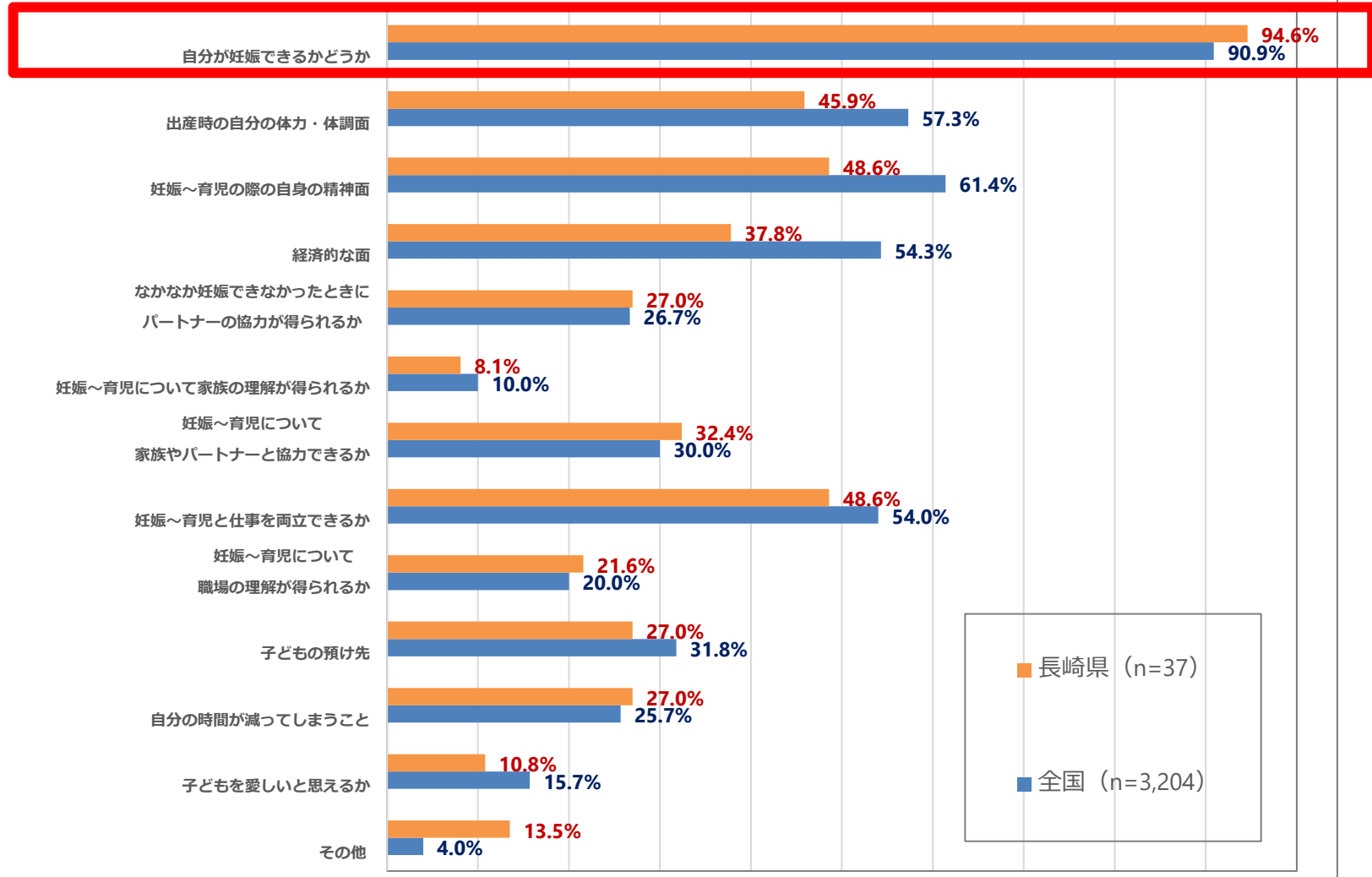
未婚・離死別の女性



現在の婚姻状況に関わらず、子どもを望んでいても
 子どもを持つことに関しては**9割前後の女性が「不安がある」と回答**

Q.今後子どもを持つことを想定した際、不安に思うことは何ですか。（複数回答）

既婚・事実婚（子どもを望む女性）の不安

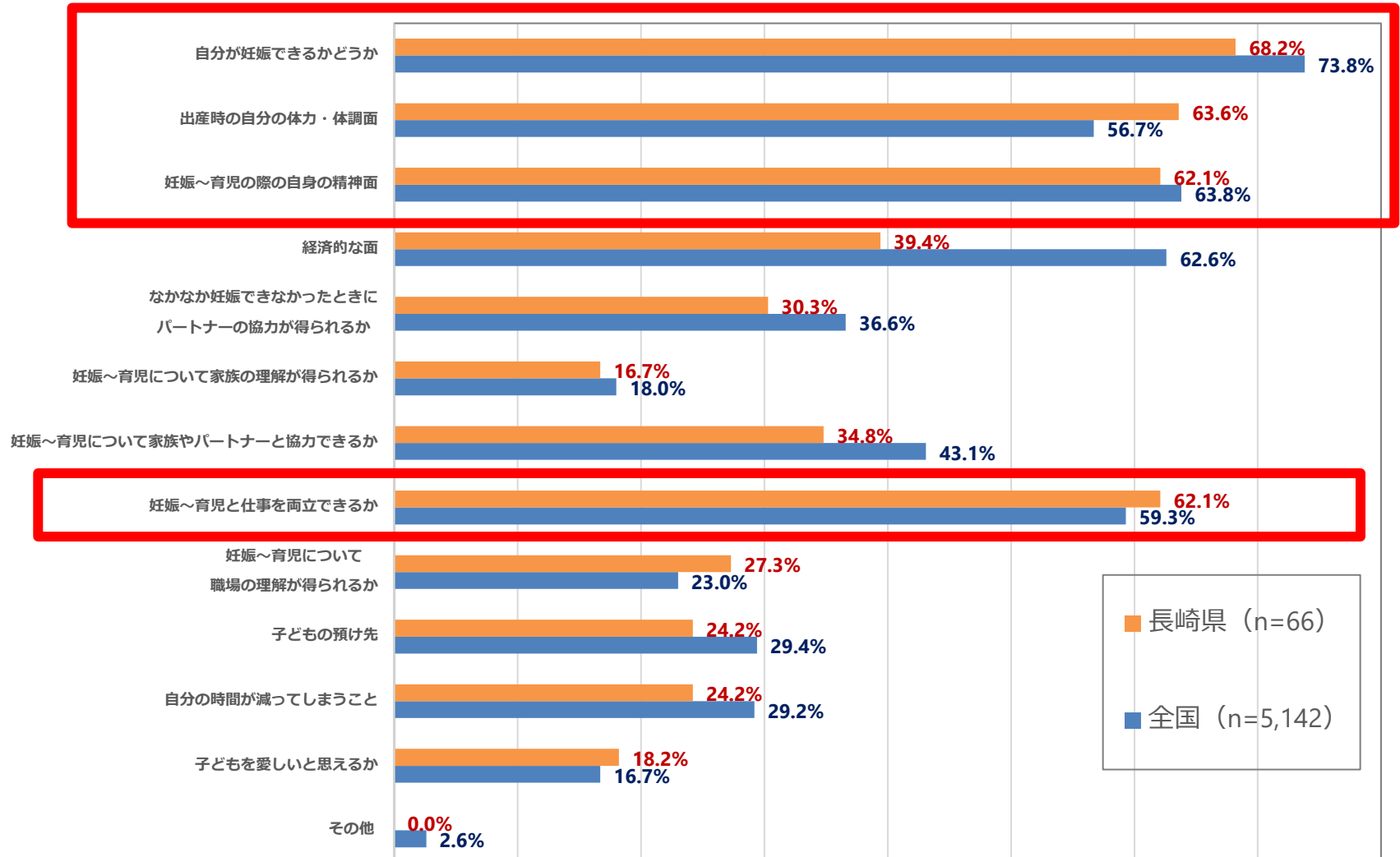


■ 長崎県 (n=37)
■ 全国 (n=3,204)

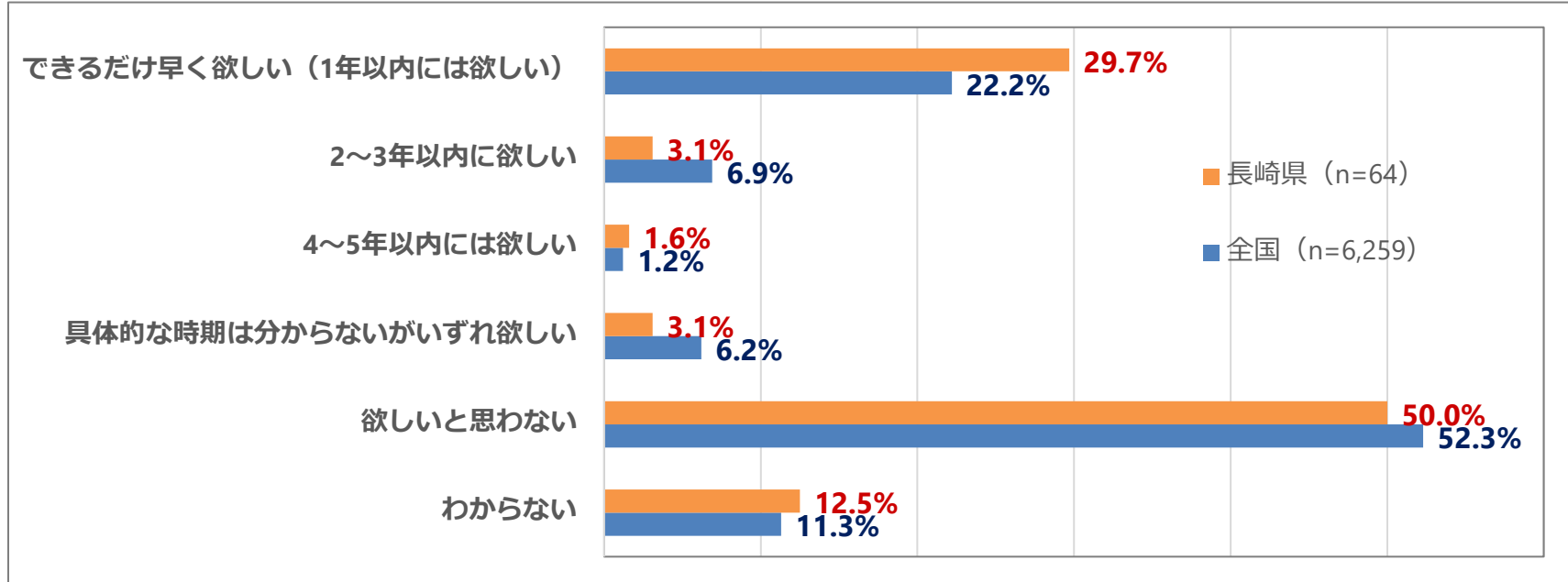
Q. 今後子どもを持つことを想定した際、不安に思うことは何ですか。（複数回答）

子どもがいない

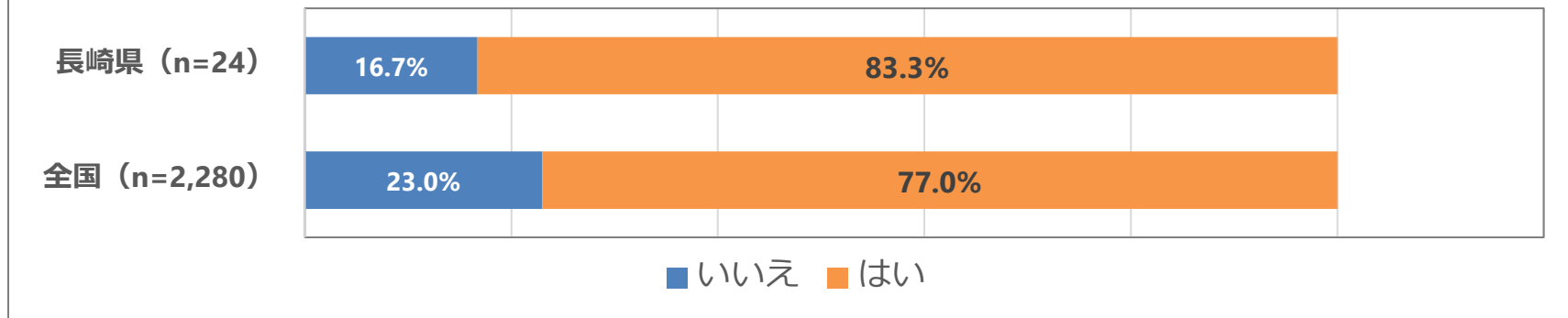
未婚・離死別（子どもを望む女性）の不安



Q.今後、さらに子ども（第2子、第3子以降）を望んでいますか。

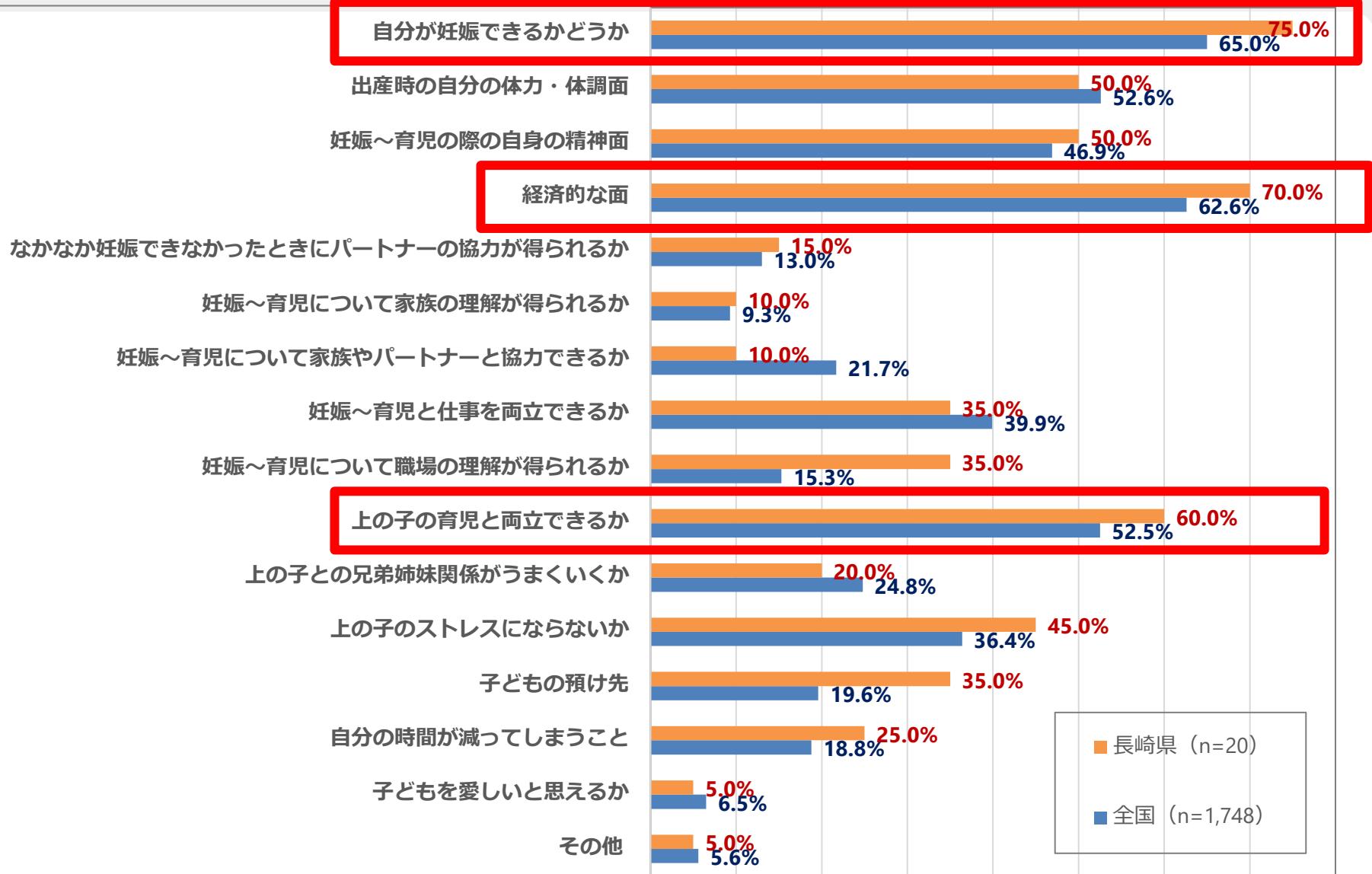


Q. (望む方へ) さらに子どもを持つことに不安はありますか。



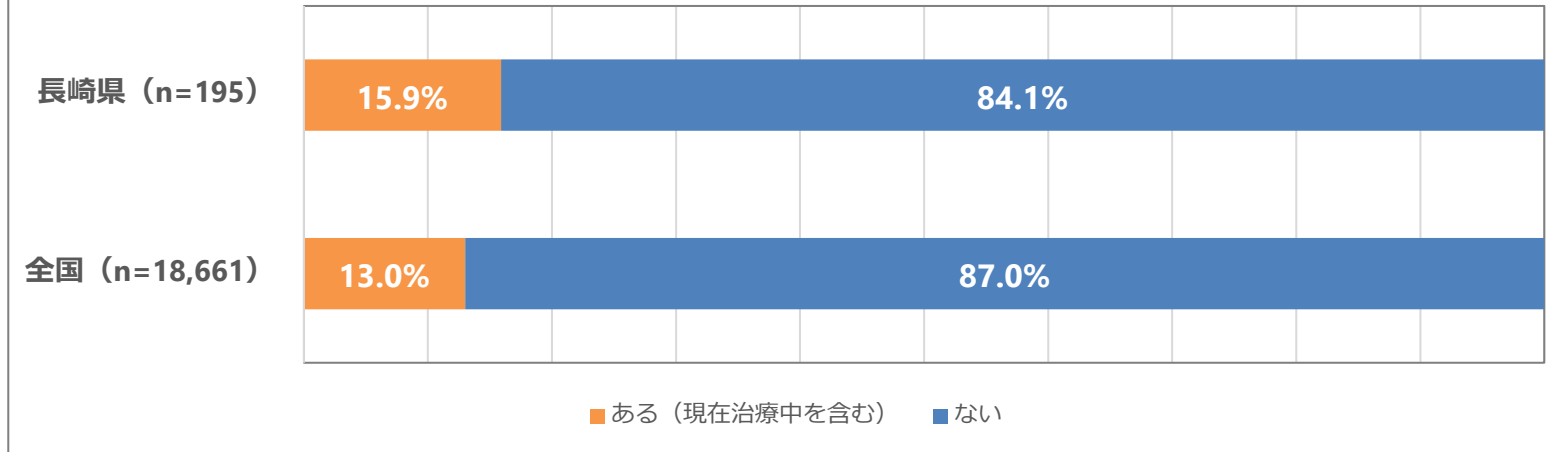
Q.今後さらに子どもを持つこと（第2子、第3子）を想定した際、不安に思うことは何ですか。（複数回答）

子どもがいる

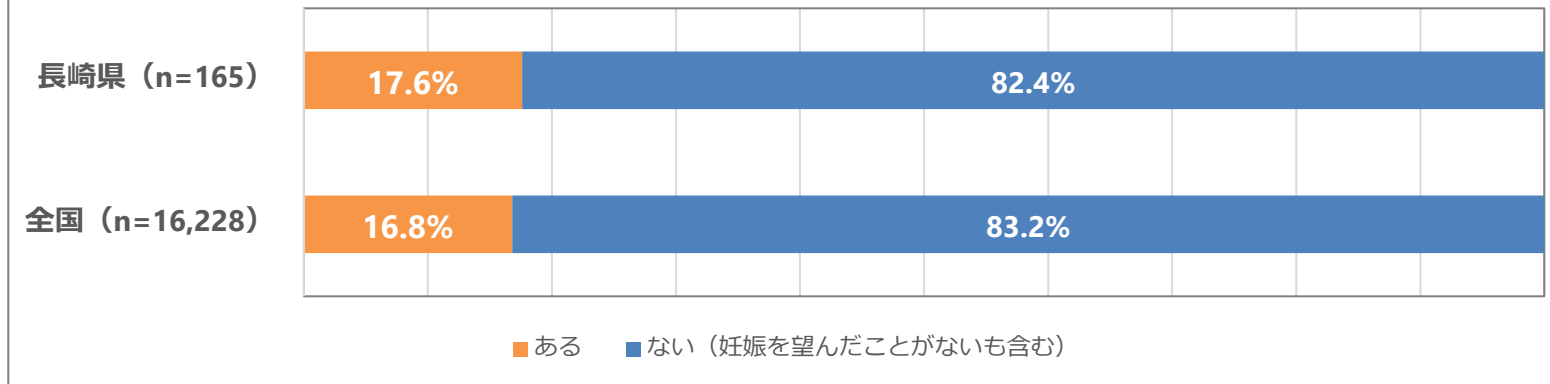


アンケートに回答した長崎県の女性の 15%以上が、不妊検査・不妊治療を経験。

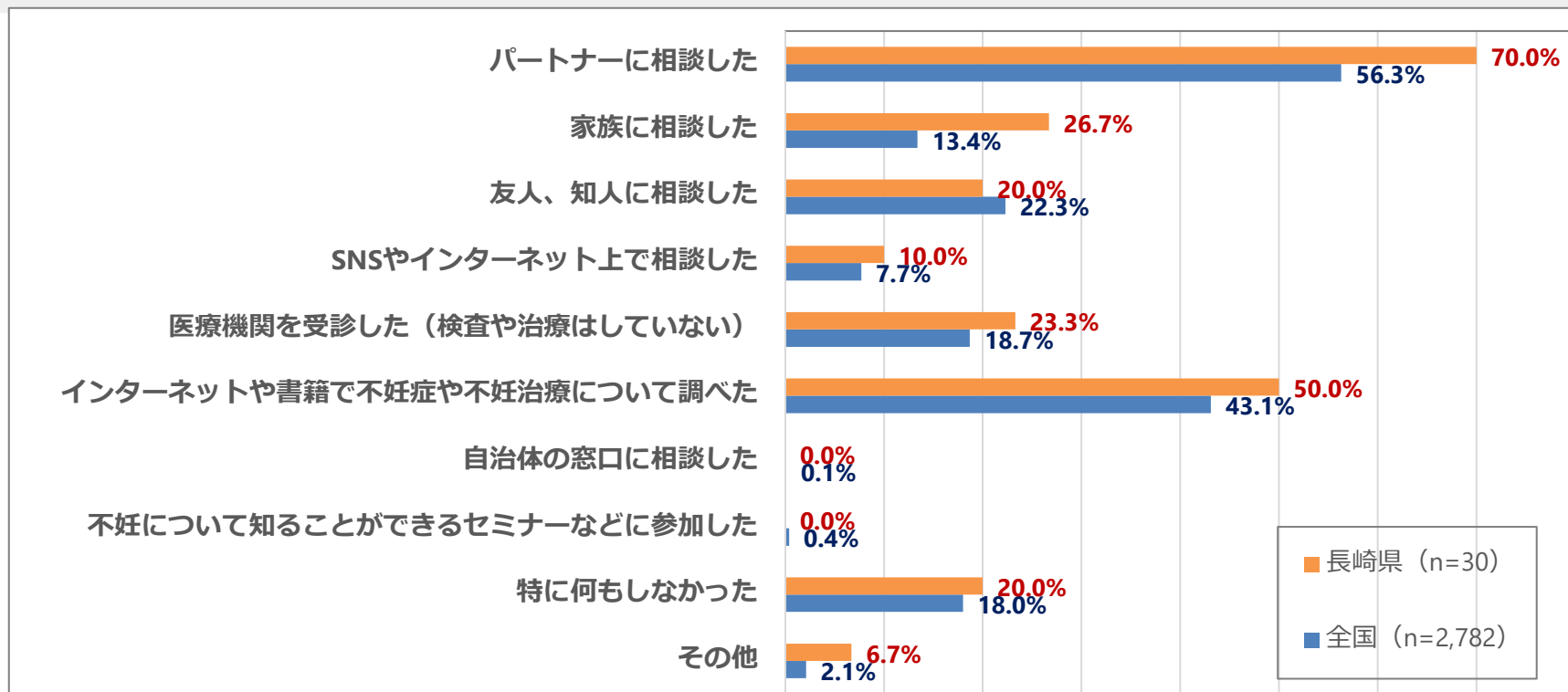
Q.不妊治療の経験はありますか（検査含む）



Q. いままで不妊に悩んだことはありますか。



Q.不妊に悩んだとき、あなたはどうしましたか。



不妊に悩んだ時、長崎県の女性の7割がパートナーに相談。5割がネットや書籍で調べたという結果に。

一方で自治体の窓口相談した人は0%。

不妊に悩んでも治療や検査を行わなかった理由の1位は「自然に授かりたかった」57.1%、2位「いずれ授かるだろうと思っていた」46.4%、

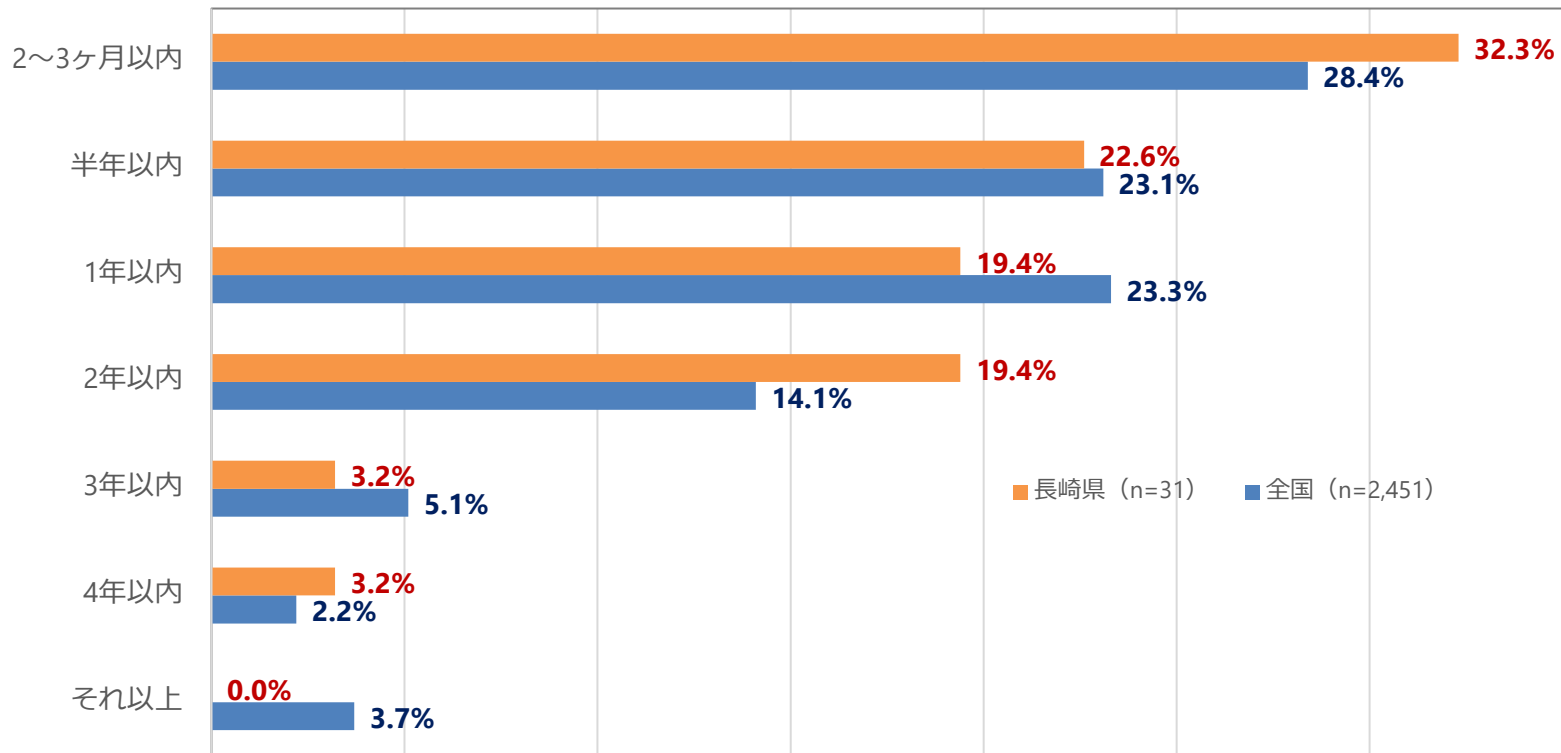
3位「仕事などで忙しかった」35.7%。また、どのような支援があれば検査や治療に踏み切ったかの質問には

1位「検査費用の助成」74.1%、2位「不妊症や不妊治療についての正しい情報・知識の提供」59.3%、

3位「不妊治療や検査をできる医療機関の情報提供」51.9%という結果に。

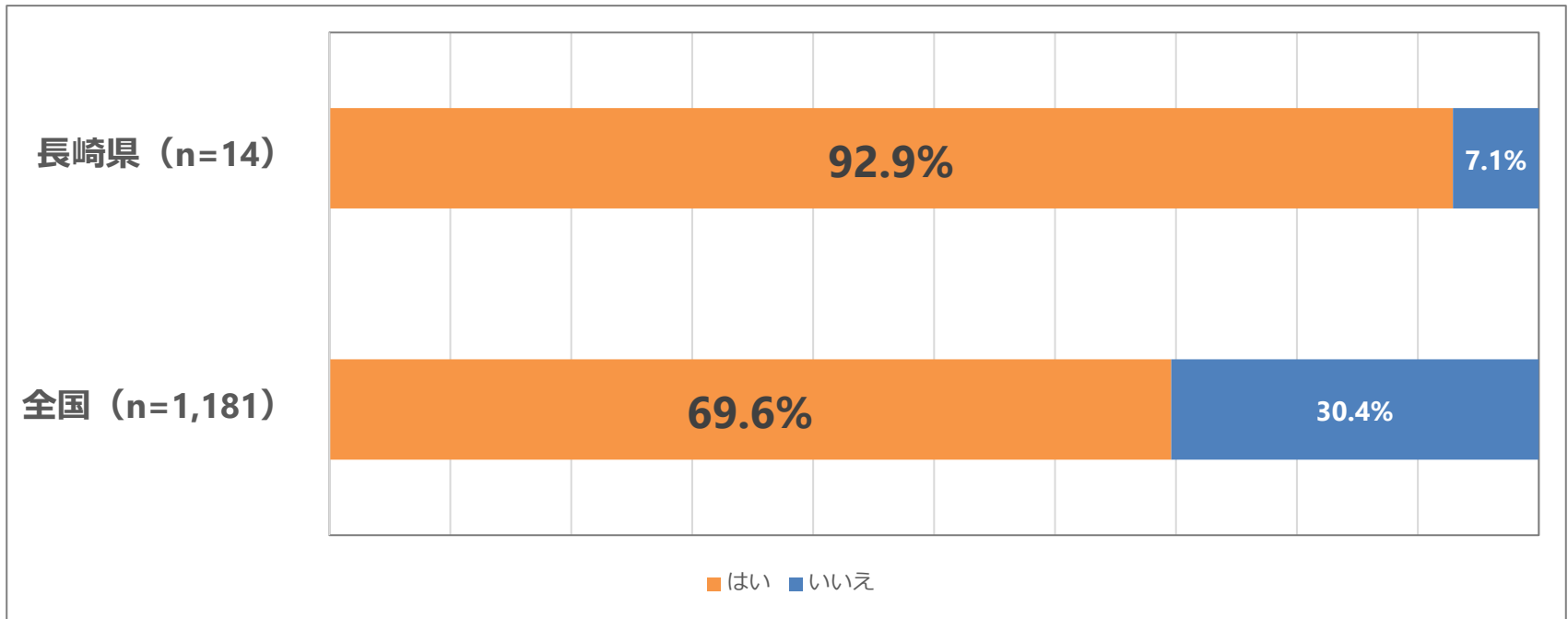
妊娠を希望してから医療機関を受診するまで、1年以上かかるケースも多い

Q.不妊を心配してから初めて病院を受診するまで、どれくらいの期間がかかりましたか。



長崎県の女性の、受診までに時間がかかった理由の1位は「自然に授かりたかった」50.0%、
2位「いずれ授かるだろうと思っていた」と「仕事などで忙しく、受診する時間がなかった」が
同率で42.9%という結果に。

Q.不妊を心配してから、もっと早く医療機関を受診しておけばよかったと後悔しましたか。



不妊検査や治療を経験した長崎県の女性の9割以上が「もっと早く受診しておけばよかった」と回答。

全国的にも約7割が受診が遅かったと後悔しているという結果に。

また、どのような支援があればもっと早く受診していたかという質問には「検査費用の助成」85.7%、

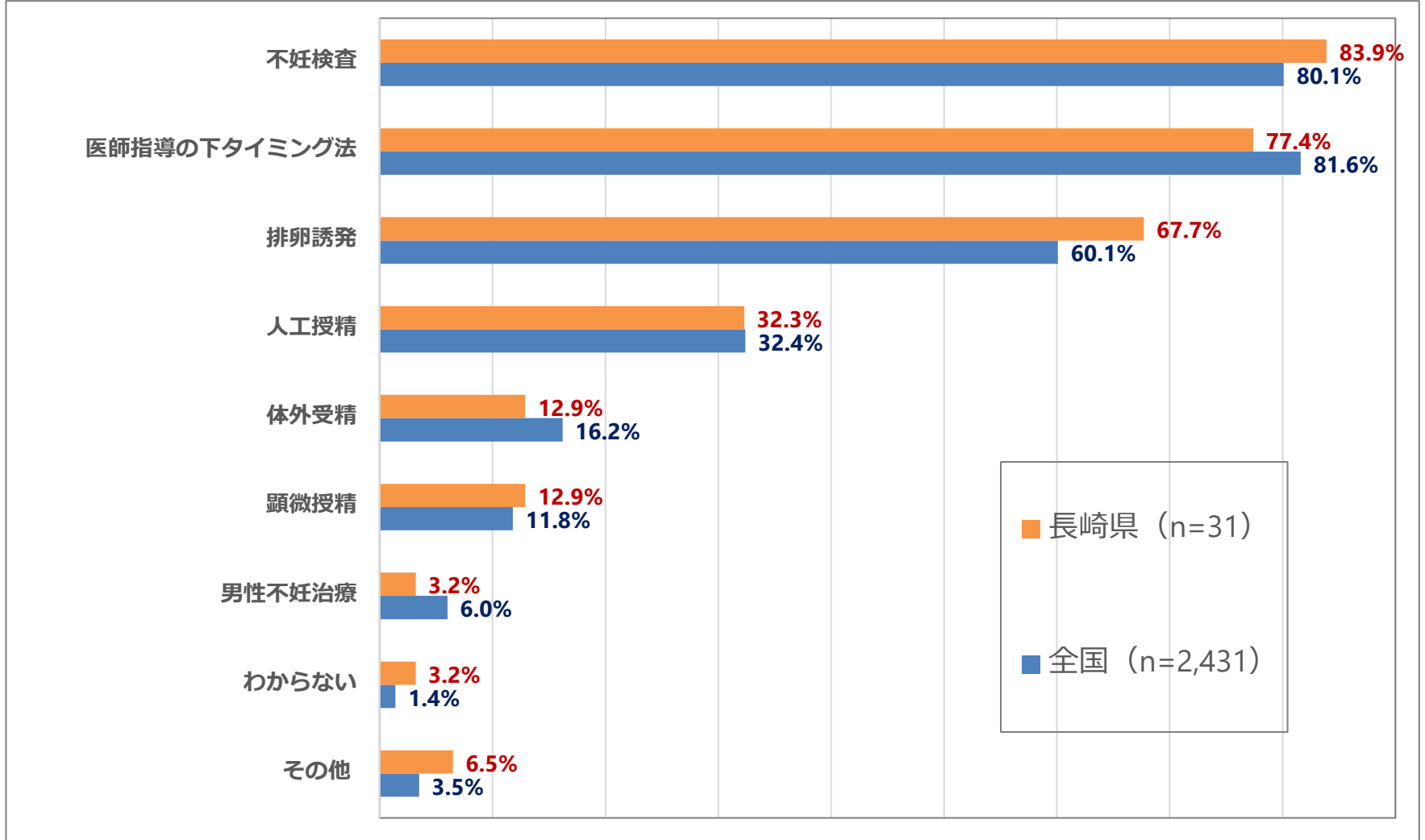
「不妊治療や検査をできる医療機関の情報提供」50.0%、

「不妊症や不妊治療についての正しい情報・知識の提供」42.9%が上位に。

また、不妊治療に助成制度があることを知っていた人は48.5%で、

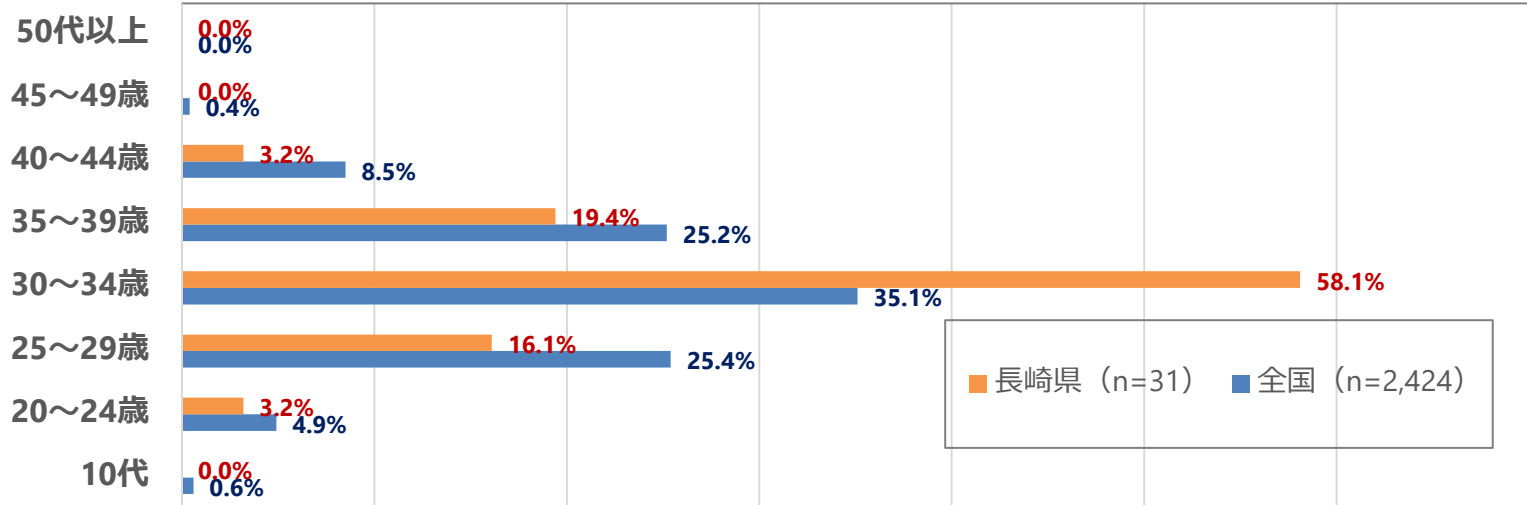
「知らなかった」が51.5%とわずかに上回った。

Q. 経験した不妊検査・治療の内容を教えてください。(複数回答)

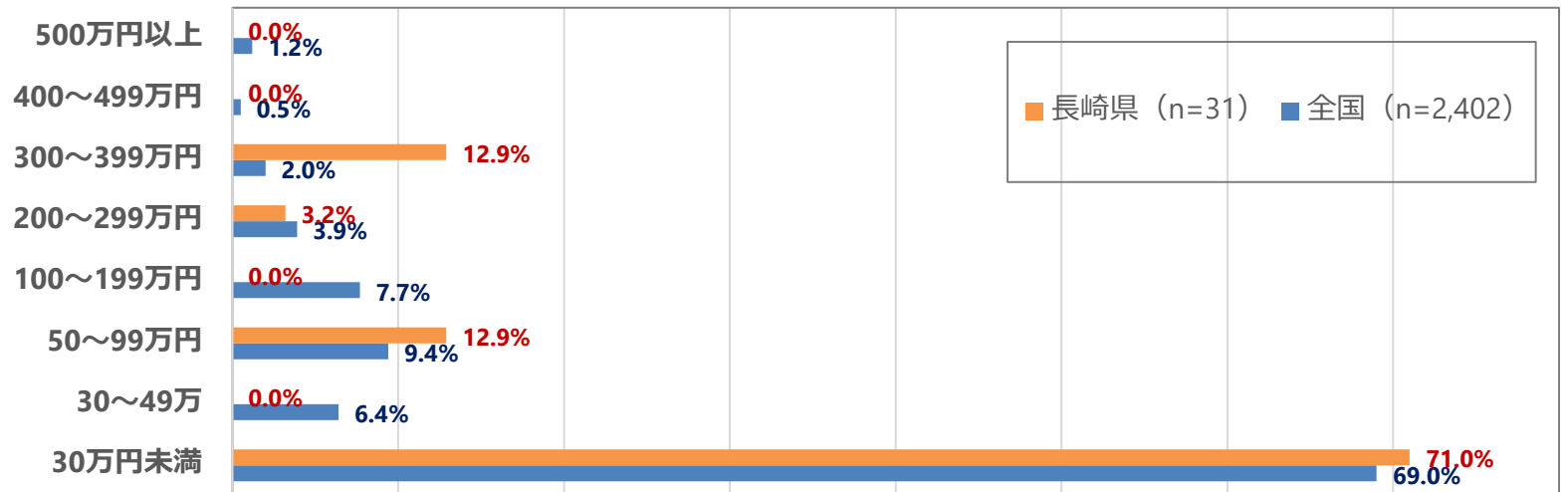


不妊治療に要する期間、金額について

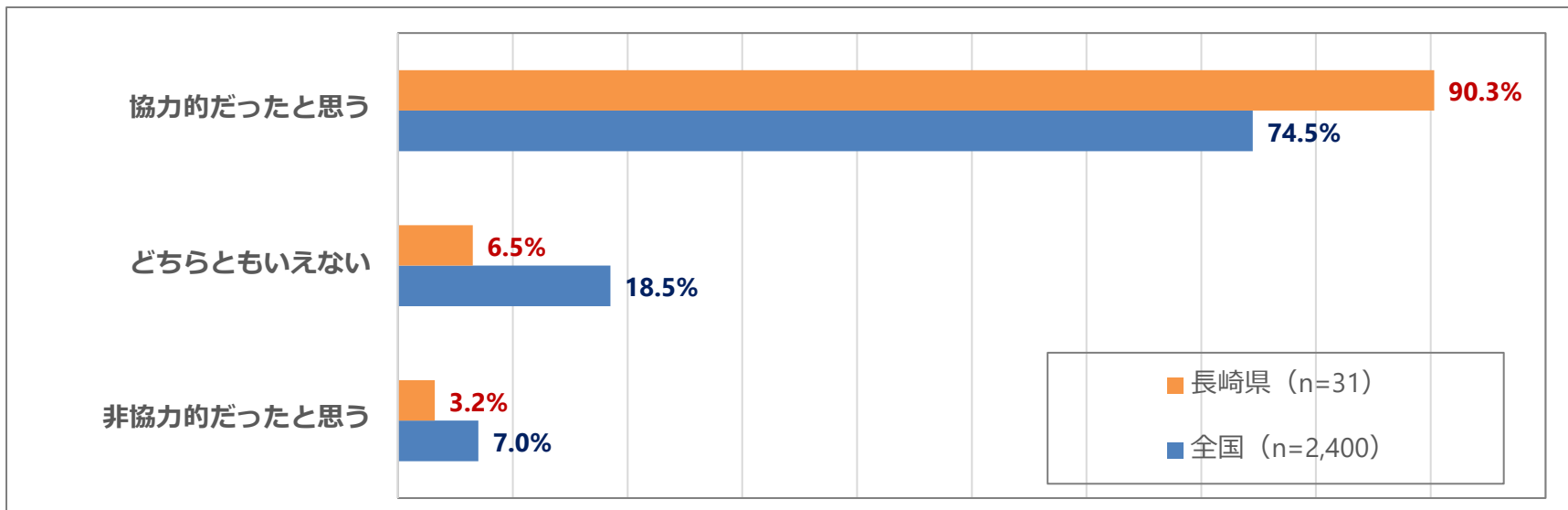
Q.治療開始時のご自身の年齢を教えてください。



Q.不妊治療に要した合計の経費を教えてください。



Q.パートナーは不妊治療へ協力的でしたか。



「協力的だった」という人の自由回答では、「嫌な顔せず男性不妊の検査にいつてくれた」「一緒に受診・検査したり医師にも積極的に質問していた」、「自主的にサプリを摂ったりタイミングを取る為に仕事を調整してくれる」などの声がある。一方、「非協力的だった」という人の自由回答では「私が不妊を気にして病院に行くのはいいが、自分は付き添わないし、自分は診察も受けない。タイミング法では、人に言われてするものではないし、したくないときに言われても嫌だと2回に1回程度しか応じてもらえなかった」、「こちらから言えばやってくれるけど、自分からは動いてくれない」といった声も。

不妊治療に関して自治体へ求めること ~長崎県女性の自由回答抜粋~

- ・助成金があっても結構な金額か掛かるようなので、もう少し助成金の金額を増やすか、治療に掛かる金額を減らすべきだと思う。そうしないとどんなに子供が欲しくてもある程度金銭に余裕がある人間しか治療が出来ないし、長期的に治療に挑めないと思う。
- ・離島にも積極的な不妊治療ができる医療機関が欲しい。
- ・不妊治療の経済的なサポートを積極的に行ってほしい。(長崎は離島が多いので、その交通費や宿泊費援助など。)
- ・収入があるからと、助成金は受けられなかった。これだけ少子化、出生率をあげよう、と政府が言っているのにおかしいと思った。どんな環境の家庭でも平等に助成金制度の適応をしてほしい。
- ・子は人類の財産です。社会全体で育てていくという取り組み、流れを作してほしい。
- ・上司や同僚は中高年の男性が多くて相談しづらいため、メンタル相談のように、職場の上司に直接ではなく、専門家経由で職場に報告してもらえると嬉しい。また、まだ検査を始めたばかりで、今後の治療内容は分からないが、金銭的な負担はかなり大きくなると考えている。今の年齢では助成対象から外れるため、対象年齢を引き下げてほしい。